



ブランパン グランド ダブル ソヌリ

REF. 15GSQ

JB
1735
BLANCPAIN
MANUFACTURE DE HAUTE HORLOGERIE

ブランパンのグランド ダ
ブル ソヌリが、グランド
コンプリケーションの世界
で新たな章を開きます



主な特徴

ワールドプレミア

ケースのプッシャーによって、4音が奏でるクラシックなウェストミンスターのか、ミュージシャンのエリック・シンガーがブランパンのために書き下ろした曲のどちらかを選べるグランドソヌリを搭載した腕時計。毎正時には、15分ごとに鳴る4つ全てを奏で、長めのパフォーマンスを楽しめる非常に貴重な腕時計です。

レトログレード パーペチュアルカレンダー

ムーブメントに完全に一体化した新しい構造で生まれ変わりました。また、ツールなしでも指先で簡単に調整ができるように設計された、ブランパンが特許を持つアンダーラグコレクターを備えています。

フライング トゥールビヨン

1989年に世界で初めて発表されたブランパンを象徴するフライング トゥールビヨンが、シリコン製ヒゲゼンマイとの4Hz振動数でアップデートされました。



ブランパン史上、最も複雑な時計

, 200の設計図、開発途中で生み出された21の特許（内、13はムーブメントに搭載）、1,053個の部品（総部品数1116個）を含む8年間のプロジェクトであり、設計、組み立て、装飾は全て自社で行われています。

比類ない音色

4音（ミ、ソ、ファ、シ）がそれぞれ別々のハンマーで奏でられます。ベゼルに組み込んだ音響膜によって音が伝わりやすくなり、小さな音量でも素晴らしい音質を楽しむことができる磁気式静音レギュレーターです。

伝統的な職人技による仕上げ

26のブリッジと18Kゴールド製の地板。アングラージュ（内側に向けた135の面取り）、ペルラージュ、鏡面仕上げ、ダイヤモンドの切削、ストレートグレイニングなど、手作業で行う伝統的な仕上げ全てが、ル・ブラッシュにあるブランパンの仕上げ工房で手作業によって施されます。部品には見える部分にも見えない部分にも装飾が施されます。

安全のための機構

ムーブメントには5つの安全システムが組み込まれ、誤操作による損傷から守ります。

身に着けるために設計された時計

極めて複雑なムーブメントにもかかわらず、全ての検査や認定に合格したこの時計は、直径47mm、厚さ14.5mm、ラグ間54.6mmで、非常に身に付けやすくなっています。

特別なプレゼンテーションボックス

ヴァレ・ド・ジュウ（ジュウ溪谷）にある伝説的なリズーの森から調達した木材で作られたケースは、単なるプレゼンテーションボックスではなく、その卓越した音質によって弦楽器職人から賞賛を受けた何世紀にもわたる伝統的な共鳴するスプールスを永続させます。この精神により、天然のサウンドボードとして響きを増幅させ、タイムピースとジュウ溪谷の文化的・職人的遺産をつなげています。

究極のパーソナライズ

所有者のご希望どおりに1本1本がカスタムメイドされるため、まさに唯一無二の時計になります。

ブランパンの遺産

2世紀にわたってブランパン一族による家族経営がルーツのブランパンは、卓越した時計製造の伝統に忠実であることを誇りとしています。高級時計製造が生まれたジュウ溪谷にあるブランパンの工房から製造されるムーブメントは、設計、組み立て、仕上げまで全ての工程が自社で行われます。コンプリートカレンダームーブメント、パーペチュアルカレンダー、アニュアルカレンダー、トゥールビヨン、カルーセル、クロノグラフ、GMT、アラーム、ミニッツリピーター、そして今回のグランドソヌリなど、時計製造を象徴する複雑機構と構造は、全てブランパンのコレクションに搭載されています。また、ブランパンでは独自のスティール、セラミック、ゴールド、プラチナ、チタンも製造されています。

グランドコンプリケーションはブランパンの歴史に顕著に現われ、特に1735は、当時、最も複雑な自動巻き腕時計であり、ミニッツリピーター、スプリットセコンドクロノグラフ、パーペチュアルカレンダー、トゥールビヨンを搭載していました。8年前、ブランパン社長兼CEOのマーク A. ハイエクが、このグランドコンプリケーションプロジェクトを考案した時、彼の頭の中では、そのゴールは過去の功績を上回るものになることが明らかでした。音色を奏でる時計の頂点は、もはやミニッツリピーターではなくグランドソヌリでしたが、当時でも、新たなグランドソヌリを生み出すだけでは不十分でした。ハイエクはムーブメントの設計チームに、その時計製造技術以上のグランドソヌリを生み出すという大きな目標を伝え、彼らを駆り立てました。ソヌリ時計製造の限界を、単に時を告げるだけでなく、同時に複雑なメロディーを奏でるまでに押し広げました。ハイエクが説明したように、それ以上のものがありました。

「グランドソヌリは、製造が最も難しい複雑機構のひとつであり、複雑時計製造の女王です。着け心地が快適なグランドソヌリを作りたいと思いました。金庫に保管されるだけではなく、本物の音楽的才能で2つのメロディーを奏で、何よりも、時を告げると本物の感動を呼び覚まし、笑顔にさせる時計です。精巧なソヌリを開けると、メロディーを奏でる4つのハンマー、ブランパンが取得した13の革新的な特許が詰まったゴージャスなゴールド製ムーブメント、最大限まで施した仕上げなどを眺めることができ、最も熱心な愛好家の皆様の心に触れたいと願っています」

時を告げる音色

今日、音で時を告げることは、時計の通常の歯車を装飾した複雑機構であり、そのタイムピースが全ての時計の中で最も希少で、魅力的で、印象的であることを伝えている、と考えられています。しかし、14世紀初頭の頃は、その真逆で、基本的に、大きな修道院と村の時計によって音で時を告げることは、針と文字盤による時の表示以上に大切でした。耳に届く範囲で生活し、働く全ての人々の生活パターンは、時を告げる音に依存し、組織化し規制されていました。グランドソヌリには、時の流れを響かせるという伝統が息づいています。ブランパンのグランド ダブルソヌリが奏でる2曲のひとつであるウェストミンスターは、ケンブリッジの聖メアリー大教会の1793年まで遡ります。その音色はロンドンのビッグ・ベンに採用され、今日その名で知られるようになりました。

グランドソヌリとプチソヌリ

1992年まで、グランドソヌリを搭載した腕時計はなく、音で時を告げるのは、好きな時に音色を鳴らすミニッツリピーターに限られていました。ごくまれな例外を除いて、スライドを引くことでソヌリを作動させることが多く、ミニッツリピーターは1つの高音と1つの低音の2つの音色を組み合わせることで時を告げます。反対に、グランドソヌリとプチソヌリは、経過時間を告げます。時計学的な定義によると、グランドソヌリは、毎正時と15分ごとに時を告げます。一般的に、プチソヌリには2種類あり、最もシンプルなものでは毎正時に音色を奏で、15分ごとには音が鳴りません。より複雑なものでは、正時をリピートすることなく、毎正時と15分ごとに音色を奏でます。グランドソヌリもプチソヌリも、ムーブメント内の香箱によって駆動し、スライドを引くなど、作動させるためのアクションは必要ありません。ブランパンのグランド ダブル ソヌリでは、ムーブメントは2つの別々の香箱に取り付けられ、ひとつはタイムピースの通常の歯車を、もう一方はグランドソヌリ、プチソヌリ、またスライドで作動させる手間を省くためミニッツリピーターも駆動させます。



メロディーで時を告げる

最初のグランドソノリの時計は2音構成で音を奏で、全てのミニッツリピーターが使っていたように低音で正時を、高音で分を、低音と高音を合わせて正15分を告げていました。ほぼ例外なく、この構成は市場にある他のグランドソノリにも使用されています。

ブランパンの領域は、グランド ダブル ソノリによってさらに広がっています。マーク A. ハイエクは、本物のメロディーを可能にするビジョンを見ました。この挑戦は壮大で、4つの音符、ミ、ソ、ファ、シを使ってメロディーを作曲することでした。それ自体、各音符ごとに異なるハンマーが4つ必要となるため、動作の複雑さが倍増します。しかしそれは、音色をメロディーの領域へもたらす第一歩に過ぎません。よりシンプルな2音構成では、音の高さにおいても、個々の音としても、また相関的にも、非常に高い柔軟性がありますが、メロディーとなると、音符と一緒に奏でられるように、各音符が完璧な高さである必要があるため、そのような柔軟性はありません。様々な意味で、コンサートマスターに似たものがふさわしくなります。一般的にリサイタルが始まる前は、オーボエが「ラ」の音を出し、続けてコンサートマスターがオーケストラを調整し、全ての楽器がぴったりと同じ高さのキーで演奏できるようにします。ブランパンの時計職人は、振動数を計測できるレーザーを使って、4つの音の高さがぴったりと調和するようにグランド ダブル ソノリの音を鳴らすゴングを検査して調整します。

シンプルな2音構成とは異なり、メロディーを奏でるために不可欠な2つめは、完璧なテンポです。メロディーを聴く時、人間の耳は10分の1秒の違いを察知できます。ミニッツリピーターのように、グランド ダブル ソノリにはチャイムのペースを司るレギュレーターが搭載され、ブランパンはソノリを特許取得の磁気式レギュレーターに取り付け、既存デザインを超えて大きな前進を遂げています。完全に無音で、チャイムとぶつかり合う機械的なノイズがないため、従来の構造より大幅にテンポが安定します。

それでもメロディーに関しては、より高い精度が求められ、4音と同様に、各音の間隔は科学的に測定されます。ブランパン独自の試験所で、ブランパンのエンジニアたちは分析データと技術的洞察によって、熟練した時計職人たちを導いています。その後、時計職人たちは伝統的なサヴォアフェールによって、ソノリ機構の歯の形にマイクロ単位の微細な調整を行います。高度なテクノロジーと職人技によるクラフツマンシップを組み合わせることにより、誤差10分の1秒以下で一定した完璧なテンポが確実に生み出されます。

メロディーを生み出すブランパンのサヴォアフェールは、正時に完璧に現れます。正15分には音を鳴らさず、毎正時のみ奏でる他のグランドソノリとは対照的に、ブランパンのグランド ダブル ソノリでは、正時の音色が美しく流れ、その後、正15分の音色が4回鳴り、長いメロディーを奏でます。つまり、メロディー全体が流れるのです。

音色のクオリティと大きさは最重要事項であり、マーク A. ハイエックは、ソヌリが奏でる音に対する評価を素晴らしいワインのテイスティングに例えています。

「ソヌリを聴くことは、偉大なワインのテイスティングに似ています。ボリュウムだけが問われるのではなく、鮮明さ、共鳴性、余韻、豊かさも大切です。一流のソヌリの音色を味わうことは、感動的な体験です」

非常に洗練された音色を目指して、グランド ダブル ソヌリには、詳細なリサーチと試験の末に選ばれたゴールド製の音色リングが取り付けられています。様々な合金が評価されましたが、一貫してゴールドが最も洗練された音色を響かせました。慣習的にゴールドが使われたわけではなく、完璧な音色を求めて、厳しい実験と熟考による選択が行われた結果です。

開発の段階で、音量も注目すべきポイントでした。ムーブメントから空間へ、より音を伝わりやすくするため、ブランパンの設計士たちは、ベゼルに取り付けたゴールド製の音響膜を考案しました。この構造は、グランド ダブル ソヌリで体现された13の特許のひとつです。



エリック・シンガー

情熱的な時計コレクターであり、有名なミュージシャンでもあるエリック・シンガーは、ハードロックバンド KISS との長年の関係で最もよく知られるアメリカのドラマーです。そのキャリアを通じて、自身のバンド ESPだけでなく、ブラック・サバス、アリス・クーパー、リタ・フォード、バッドランズ、ブライアン・メイ、ゲイリー・ムーアともコラボレーションしてきました。75枚以上のアルバムと11枚のEPに参加したシンガーは、ロックミュージックの世界で最も多才で尊敬されるドラマーの一人としての評判を確立しています。

グランド ダブル ソヌリに2つめのメロディーを搭載することによって、時計製造界に新境地を開く決心をしたマーク A. ハイエクが、古くからの友人であるシンガーに作曲を依頼するのは自然な流れでした。シンガーはこのプロジェクトのためにオリジナル楽曲を作曲し、彼にとって全く新しい創造的体験となりました。作曲過程において、シンガーは友人であり著名なキーボーディストであるデレク・シェリニアンと緊密に協力しました。シェリニアン音楽的洞察力和和声感覚は、最終的なメロディ形成に不可欠な要素となりました。両者は共同で、ムーブメントの技術的制約を時計の独自性を象徴する音楽的特徴へと昇華させたのです。

「ブランパンのチームが時計の技術仕様書を共有してくれた時、そこに書かれていることは一言も理解できなかった」と彼は冗談めかして語りました。

「真の難題は、音階がたった4音しかないことに気づいたことでした。時計にとっては十分のように聞こえるかもしれませんが、音楽家にとっては大きな制約です。この制約を音楽に変えることが真の難題であり、私とデレクにとってこのコラボレーションがこれほど魅力的な理由でもあります。」

シンガーによるメロディーは、『ブランパン』と題されています。所有者が操作ボタンを押すと、『ウェストミンスター』か『ブランパン』を選ぶことができます。その機構にはコラムホイールが搭載されているため、メロディー切り替え時の滑らかな操作が保証されています。





トゥールビヨン

1989年に登場して以来、フライング トゥールビヨンはブランパンを象徴する機構になりました。ほとんどの構造はロウワーブリッジとアッパーブリッジの間に吊り下げられていますが、このデザインではアッパーブリッジが取り外され、バランスホイール、ヒゲゼンマイ、脱進機のキャリッジとその構成部品を完全に下から支えているため、「フライング」という言葉が使われています。発表当時、革命的であったブランパンのフライング構造は、ワクワクするようなトゥールビヨンの動きを遮ることなく見ることできたため、世界初の貴重な腕時計となりました。グランド ダブル ソヌリでは、このアイコンがさらに引き立てられています。振動数は3Hzから4Hzに向上し、シリコン製のヒゲゼンマイによって耐磁性が確保され、また、軽量、理想的なフォルム、主ゼンマイの力が変化してもより一定した振幅を保つという3つの特性により、クロノメーター性能も上がっています。技術的な向上に加えて、グランド ダブル ソヌリではトゥールビヨンの美しさも実現されています。特に表面の鏡面仕上げなど、ケーシングに施された仕上げによって、比類ない光の戯れが生み出され、機構がますます優美になり、動くたびに人々を魅了します。

レトログレード パーペチュアルカレンダー

グランド ダブル ソヌリ系統のタイムピースは、時計製造において最も著名で便利な機構であるパーペチュアルカレンダーを搭載しているとみなされています。ブランパンのコレクションでは様々なパーペチュアルカレンダーを提供していますが、グランド ダブル ソヌリの製作にあたっては、グランドコンプリケーションの世界ではほとんど見られない、まったく新しい構造が必要でした。グランドコンプリケーションにおいてこの機能を搭載する際の標準的な手法は、カレンダー機構をムーブメントの地板とは別の専用プレート上にモジュールとして実装することです。しかし、その手法では、専用のカレンダープレートによって必然的にソヌリが遮られ見えなくなるため、オープン構造のグランド ダブル ソヌリとは食い違うものでした。ブランパンは、プレートを分けるという通常の方法を回避し、代わりに、カレンダーをムーブメントの中に完全に一体化するというさらに難しい手法を取りました。

日付表示はムーブメント外周の左側に位置し、曜日表示、月表示、閏年表示は、右側の2つの専用サブダイヤルに配されています。通常、ブランパンが特許を取得したアンダーラグコレクターはケースに一体化し、小さなバネで確実に跳ね返るため、ツールを使わずに、指先で簡単に調整することができます。しかし、グランドダブル ソヌリには音響膜が存在するため、このシステムを再考する必要があります。このモデルでは、跳ね返りバネを含むコレクターを直接ムーブメントへ一体化したため、今までにない解決法によって、使いやすく、技術的なエレガンスも保たれた、ブランパンの精神に忠実な時計が完成しました。





仕上げ

洗練された仕上げは芸術であり、ル・ブラッシュには、ブランパンのハイコンプリケーションのためだけの仕上げ工房があります。ここでは熟練の職人たちによって、伝統的な仕上げモチーフと技術の全てが行われています。

手作業の美しさを強調するため、ブランパンはグランド ダブル ソヌリの地板とブリッジに18Kゴールドを採用しました。この素材は視覚的に美しい効果をもたらすだけでなく、その柔らかさによって、従来のメタルよりもさらに繊細な取り扱いを必要とするため、卓越した技術と忍耐が求められます。それは、間違いが許されず、熟練した職人技が必要だからです。ゴールドはムーブメントの見た目に独特なあたたかみをもたらすだけでなく、ポリッシュ仕上げの表面は、一般的に使用される真ちゅうや洋銀と比べて、より鮮やかに輝きます。

ブランパンは、高級時計にふさわしいように、オープンダイヤルやクリアケースバックから見える部品の側面だけでなく、通常は時計職人が組み立てる際にのみ目にするか、あるいは何年も経ってメンテナンスを行う場合に目にするようになる、普段は見えない側面など、あらゆる部分に仕上げを施しています。

ムーブメントの部品の内角に施された135の面取りが、工房での手作業による精巧な仕上げを証しています。これらの鮮やかな面取り仕上げは、まず手彫りで縁を整え、次に細かい研磨剤で木材を磨き上げ、最後にジュウ溪谷に自生するリンドウの木の茎を用いて研磨を施すという、手作業による入念な工程によってのみ実現されます。

鋭い観察眼を持つ人々は、電気工具によっては鋭角な内角を加工できないことを知っているため、ムーブメントの仕上げを丁寧に調べ、最も素晴らしい手作業による伝統的なオートオルロジュリーの仕上げのしるしを探します。





時計職人

時計職人にとって世界は微小な次元へと縮んでいき…ループ、微細な部品、作業台…周囲は静まり返り、遮断されます。グランド ダブル ソヌリに命を吹き込んだ2人の時計職人、ロマンとヨアンにとって、この表現は部分的には正しいでしょう。両者ともブランパンに10年以上所属し、キャリアのほとんどをミニッツリピーターに注ぎ込みました。しかし、1000個以上のグランド ダブル ソヌリの部品を組み立てることによって、彼らの世界は大きく広がりました。ループと作業台という隔離された空間から離れ、ロマンとヨアンは、協力するだけでなく、ムーブメントの設計士たちに参加して、グランド ダブル ソヌリを製作するための手順と繊細な技術を精査するように依頼されました。彼らが直面したのは、ミニッツリピーターの厄介な難題をはるかに超えるものでした。ミニッツリピーターでは、トーンとテンポに高い柔軟性があり、音が適度に心地よく規則的であればそれで十分です。グランド ダブル ソヌリでは、2つのメロディーで完璧な音程と今までにない精度のテンポが要求されるため、世界がまったく異なります。さらに、他のグランドコンプリケーションとは異なり、ムーブメントの構造は圧倒的な複雑さを誇り、すべての要素がひとつの地板上に完全に一体化されていました。この画期的な時計製作へと導くための脚本も、公式も、厳密に定義された前例もありませんでした。組み立ての計画作成に6ヶ月以上が注ぎ込まれ、最も重要なのは、彼らの前に立ちはだかる無数の課題に適応した特殊工具の設計と製作でした。現在、全ての時計はほぼ12ヶ月分の作業を要し、それぞれがロマンまたはヨアンによって、最初から最後まで、個別に組み立てられています。2人の時計職人がそれぞれの時計を完成させる時、ロマンとヨアンは、自身が組み立てたムーブメントに取り付けるブランパンのゴールド製プレートの裏面に自らの署名を刻み込み、数ヶ月にわたる労苦へのささやかな満足と報いがもたらされます。



